

# 2024 年度 韓国 祥明大學校 交換留学報告書

総合管理学科 原田愛子

私は、2024 年 3 月から 12 月までの約 10 か月間、韓国の祥明大學校天安キャンパスに交換留学生として在籍していました。約 10 か月間韓国でどのように生活していたかを共有するこの報告書が、留学を考えている方や留学に関心がある方にとって、少しでも参考になりますと幸いです。

## 【寄宿舍】

寄宿舍は、女子は新館と旧館の 2 つがあり、私は前期後期共に旧館で生活しました。2 人部屋が基本で、部屋には靴箱、クローゼット、机、椅子、ベッド、冷暖房が備えられています。各部屋には暗証番号のオートロックが付いています。布団や室内用のスリッパ、ハンガー、洗剤等の必要な生活用品は自分で買い揃える必要があります。生活用品は 쿠팡(Coupang)という韓国のアプリやダイソーで購入していました。また、洗濯機や乾燥機を使う際にはスマートフォンのアプリを通じて行います。アプリに登録する際に本人認証が必要であり、その際に銀行口座や外国人登録証、電話番号が必要になるので、銀行口座や外国人登録証がない最初の方は学校の近くにあるコインランドリーを利用していました。寄宿舍に出入りする際にはモバイル学生証のアプリを使って出入りしました。テスト期間を除く学期中には非対面での点呼があるため、決められている時間内に機械にモバイル学生証をかざさなければいけません。点呼は、前期は月曜日から木曜日まで、後期は月曜日から水曜日までで、基本的に金曜日から日曜日は自由外泊のため、点呼はありませんでした。門限は前期後期共に 24 時でしたが、事前に申請をすれば午前 1 時までには延長可能でした。

また、旧館の寄宿舍には女性の警備員の方が常時いらっしゃるのですが、何か困ったことがあったりした際には、警備員の方に相談すると親切に助けてくださいます。

寄宿舍にキッチンはなく、調理器具も使用不可だったため、食事は外食やレトルト食品、デリバリーで済ませていました。旧館の隣にある新館内にコンビニがあり、誰でも利用することができるため、食事に困ることはありませんでした。学食は朝から昼過ぎまで運営されており、朝のみ 1,000 ウォンで簡単な朝食をいただくことができます。昼は 5,000 ウォン台からの多様なメニューが用意されています。学校周辺にはリーズナブルな価格かつおいしいお店もたくさんあります。



1,000 ウォン朝ごはん



雪の日の寄宿舎内

## 【授業】

単位は各学期 12 単位以上取得する必要があります。

私は、前期に日本語学科の授業を 3 科目、教養の授業を 2 科目履修しました。前期は留学生の数が少なく、留学生向けの授業は開講されませんでした。日本語学科の授業では、日韓の文化の違いについて学ぶ授業、SDGs についてグループで討論をする授業、日本の伝統的な思考方法や現代的な思想の関係を日本の精神と日本の文化を通じて学ぶ授業を履修しました。教養の授業では、TOEIC 対策の授業と、世界各国の文化的特性の概要を学ぶ授業を履修しました。

後期は、留学生向け授業を 2 科目、日本語学科の授業を 4 科目履修しました。留学生向けの授業は、オンラインでは文法を学ぶ授業、対面では韓国語の表現を学んだり、与えられたテーマに対して自分がどう考えるか発表する授業を履修しました。日本語学科の授業では、日本の本をグループで翻訳する授業、日本の映画を通じて現代日本の文化や問題点について考える授業、国際社会と日本の政治がどのように関わりあってきたかを学ぶ授業を履修しました。

はじめは授業のスピードに慣れるまでに時間がかかったり、授業で出てくる難しい単語を聞き取ることができず苦労しましたが、予習や復習を毎日行い、回数を重ねるごとに慣れ、授業についていくことができました。教授も内容を理解しているか確認して下さることも多く、わからないことがあっても質問しやすい雰囲気です。授業を受けることができました。また、同じ授業を受けていた友人と一緒にテスト期間に内容を確認しながら勉強することで、内容を深く理解しながらテスト勉強を進めることもできました。

## 【行事】

前期、後期ともに様々なイベントがありました。

4月には、小さな学園祭がありました。フードトラックがたくさん来ていて、たこ焼きなどの日本食もありました。昼から夜にかけて学生たちのステージもあり、夜には屋外で映画が放映されていました。留学生の文化体験として、ロッテタワーで1日時間を過ごしました。ロッテタワーでは、展望台と水族館のチケットを学校が用意してくださり、楽しい時間を過ごすことができました。5月のはじめにはMTという学科の合宿がありました。レクリエーションやお酒を飲みながら学科の学生たちとの仲を深めました。また、近くの大学での学園祭でaespaやPSY、Jay Parkなどの公演があったため、見に行きました。

後期は、祥明大学の学園祭がありました。前期に行われたものよりも規模が大きく、HIGHLIGHTやQWER、10cmなどのアーティストの公演もありました。2日目は雨が降り開催が危ぶまれましたが、アーティストの公演が始まる前に雨がやみ、クライマックスの花火まで見ることができました。10月には留学生の文化体験としてエバーランドに行きました。入場チケットは学校が用意してくださいました。天気にも恵まれ、楽しい思い出を作ることができました。また、日本語学科の行事として、日本語状況劇大会がありました。私は日本語学科長の友人と共に司会を務めさせていただきました。円滑に進行することができるか不安でしたが、無事に終わることができました。大会の途中で日本に関するクイズを出題した際に、難しい問題が何問かあったにも関わらず、毎回素早く正解が出たので驚きました。

行事以外にも、後期からは日本語学科の友人が日本人留学生と韓国の学生が交流できる部活動を新しく作ったため、積極的に参加していました。お互いの国の文化を知る時間や一緒にゲームをするだけでなく、授業では会うことがなかった学生とも関わることができ、毎回充実した時間を送ることができました。日本語学科ではない学生が参加していることも多く、たくさんの学生と一緒に活動を行いました。



MT

学園祭のステージ

エバーランド

## 【金銭面】

韓国では、カードでの決済が主流です。ほとんどどこでも問題なく使うことができましたが、たまに決済の時にエラーが出ることもあったので、カードは主に使うカード以外に、予備で2枚ほど持っていくことをおすすめします。現金は、ほとんど交通カードへの入金のみで使用しました。韓国の銀行口座ができてからは、友人と割り勘をする際に現金

がなくてもアプリで送金をすることができたので、とても便利でした。また、銀行口座ができるとインターネットショッピングも可能になり、楽に買い物ができるようになりました。前期は円安の進行と物価上昇の影響を受け、あまりお金を使うことはありませんでしたが、滞在中の生活費は毎月いただいていた奨学金と、留学前に自分で貯めたお金で賄っていました。

## 【交通】

韓国は交通費が日本と比べて安く、バスや地下鉄は一律料金で、交通カードを利用すると30分以内は乗り換えが無料です。天安からソウルまで地下鉄では約2時間、高速バスでは約1時間で到着します。地下鉄では約3,000ウォン、高速バスでは学割を利用すると約5,000ウォンでソウルまで行くことができます。よく利用していた高速バスは、事前にTmoney GOというアプリで座席を予約していました。アプリがなくても、バスターミナルにあるキオスクで予約することもできます。天安は交通の便が良く、地下鉄やバス以外にもKTXなどの高速列車も通っているので、遠方に行く際も楽に移動することができました。

## 【休日】

学期中の休日は友人と遊んだり、買い物に出かけました。ソウル以外にも、たくさんの地方都市に遊びに行きました。また、好きなアーティストのコンサートにも行くことができ、楽しい思い出をたくさん作ることができました。

夏休みにはソウルに部屋を借りて1人暮らしをしました。韓国人の友人と遊ぶだけでなく、友人や家族が韓国に遊びに来てくれることも多く、一緒に観光をして、有意義な夏休みを過ごすことができました。また、1週間ほど一時帰国をしたため、日本でゆっくりする時間を取ることができ、リフレッシュした気持ちで新学期を迎えることができました。

冬休みは、学期が終わってからすぐ帰るのではなく、年末まで韓国で過ごしたので、帰国前にたくさんの友人と一緒に時間を過ごし、今まで行ったことがなかったところにも出かけ、最後まで充実した時間を過ごすことができました。韓国はクリスマスが過ぎてもツリーが飾ってあるところが多く、クリスマスの雰囲気が長く続いており、日本とは年末の雰囲気が違うなと感じました。



パジュ市

コンサート

景福宮



明洞のクリスマスツリー

友人とのクリスマスパーティー

## 【まとめ】

留学前には長期間外国で生活することができるか不安な気持ちも、新しい出会いや経験を待ち遠しく感じる気持ちも両方ありましたが、周りの環境や人に恵まれ、一生の宝物のような非常に充実した留学生活を送ることができました。留学を通じて語学力だけでなく、様々な経験を通じて人としても成長することができた意味のある10か月間だったと感じます。また、留学生活を送るうえでたくさんの方々に支えられてきました。留学に送り出してくれた家族、CIEEの方々、そして祥明大学の教授、仲良くしてくれた学生、すべての方々に心から感謝申し上げます。ここまで報告書を読んでもくださり、ありがとうございました。